川柳 さいたま

平成26年
1 月号 (No.650)

日川協加盟

馬に乗るということ

願法みつる

新しい干支の歳が巡り来た。今年は、干支の真ん中である午「ご」に、農耕や軍事に有用な馬の字を当てはめた古人の知恵振りを知った。午の刻から始まって、正午や午前午後など身近な日常語も、馬が身近な動物であった証左だろう。あの生真面目そうな馬面には、何故か親近感すら感じられるから不思議である。

終戦間近の疎開先で、積雪時の運動に出される農耕馬に幾度か単独騎乗させて貰った。正直な馬で乗り手の子供が手綱を引くまでは、黙々と積雪の中を歩んだ。あの馬体の温もりや躍動感が、今も思い出される。

天翔る神馬とか馬頭観音という畏敬の念とともに、落馬止め天神を尊ぶなどはまさに人間的ですらある。

ところで干支への新年の祈願は、一般に短い内に忘れやすいモノである。しかし馬は、他の干支の動物に比べると実直で正直な相手であり、忘れにくい存在とも言えそうだ。としたら今年の干支には、一年を通じて多くの希望を託しても良さそうではないか。

ともあれ今年は、馬には乗ってみよう、人には添うてみよう。どの様な「馬」を選ぶか、何事も挑戦である。結果として馬齢を重ねる事になるのか、馬脚を現すことになるか…そこはそれ天神様のユウトオリ。

一月号 目次

わたしの好きな句　加藤孤太郎　表紙 2
巻頭言　馬に乗るということ　願法みつる　1
彩玉集 ― 同人吟　2
古丘の世界　文・今村　寿子　5
提言「雑詠への回帰」　願法みつる　6
雑　詠　願法みつる選　8
映像川柳　石田　正則　8
ふるさと紀行　石田　正則　17
七七句　松田重信選　18
私の初詣　西松　忠義　22
興津　幸代　23
交替鑑賞　岡野　輝男　24
初歩添削講座「別れ」「雑詠」　加藤孤太郎　26
題　詠　「友　情」　青鹿　一秋　選　30
「矢」　田中寿々夢　選　30
「用　心」　大澤　静江　選　31
さいたま十二月句会　32
美江賞募集案内・大会案内　37
年賀風交　39
編集さろん　表紙 3
句会案内　表紙 4
表紙（題字・清水　美江　写真・千葉　古丘）